

警官の負傷ふえる

今年は
百人 八割が水俣騒動で

いま警察は年末防犯態勢、警官はあつたためである。

毎日昼夜の別なく勤務を続けているが、身体をはつての勤務だけにかなりの危険がつきまといつており今年中だけでも犯人逮捕、交通取り締まり、酔っ払い保護、警備実施などのとき十六件百人の警官が負傷した。この数字は二十一年以来毎年増えている。二十一年から順に見ると三十一年八人(八件)三十二年二十人(十七件)三十三年千人(十九件)ことしは百人(十六件)と著しい増えようだ。

これはことしは水俣であつた新日鉱の漁業補償問題をめぐる騒ぎが

最も多かったのは十二月二日の水俣騒動で警官八十人が五日から二十日かかる傷を負つたのと

熊本で自方が行なつた六月二十九日の越金資金要求、七月二日知事に面会を求めたデモのとき六人の警官が七日から十日間かかる傷を負つた。

このほかひどく傷を負わされた例を見ると十月二十一日夜十時ごろ阿蘇郡白水村で交通取り締まりを受けた二十二才の男が警官に食

つてかかり、拳で顔をやたらとなぐり、顔面割傷、打撲、口内割傷

治療一カ月の傷を負わした。

このほかほとんどが交通違反の取り締まり、泥酔保護を受けるときに警官に食つてかかつた例が多い。この分では国民の公憤も染じやない。これから年の瀬にかけて忘年会などで酒を飲む機会が多くなるが、せめて酔っぱらつて保護されたときぐらいはおとなしくしてもらいたいものだ」とある警官はなげいていた。